

企業名： 宝ホールディングス

レポート名： 宝グループレポート 2024 統合報告書

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる。統合報告書の中に、「宝グループのアイデンティティ」というページがあり、そこでは Mission（企業理念）、Values（グループ共通の価値観）、Vision（ありたい姿）が記載されている。Mission や Values でもグループ企業として大切にしていることが伺えるが、それ以上に Vision では「ありたい姿」としてグループの目標が明記されている。そこで「グループとして将来どういう姿になりたいと考えているか」に対して「Smiles in Life～笑顔は人生の宝～」という文言があり、さらにその隣の長期経営構想についてのページで再び大きく Vision が書かれており、同じ文言がある。

また、それをどのように実現していくのかを図示化した「宝グループの価値創造プロセス」のページがあり、どう将来の姿を実現するのかをよりわかりやすく理解することができた。統合報告書全体を通して ROIC 経営を強調している。ROIC 経営を社内で浸透させることによって、社会課題を解決する事業も含めた事業で稼いで、それを新たに投資に回すという流れを実現させる方針だ。それを通して結果的に Vision を実現できるというように理解した。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

宝酒造に関しては理解できる。「グローバル和酒 No.1」として商品のブランド力は強いと言えるだろう。宝酒造インターナショナルグループについては、宝酒造との協業を通じた部分では、そのブランド力を活かすことができるためある程度の競争優位性はあると感じた。しかし単体で見ると、トップメッセージにおいて「当社が展開している米国、欧州、オーストラリアの中では特に米国の拠点数で競合企業に遅れを取っており、世界最大の同市場での拠点拡大を最優先課題に掲げています。」としているため、この統合報告書からでは競争優位性を明確に把握することは困難であった。

タカラバイオグループに関しては、理解することはできなかった。私自身がこの分野に明るくないことと、研究開発から発売、収益化までの期間が長い傾向にあるという医薬事業の特徴も影響しているだろう。また、2024年3月期にはコロナ関連製品の売上が減少したことなどが影響し減収となり、研究開発の選択や販管費の抑制を行なったが減益となったとしている。非常に難しい問題ではあるが、コロナ禍が終わる可能性を予測し、その場合の行動を企業として考えておくことができているならばもう少し異なる業績になっていたかも

しれない。この予見能力と、そこで後への投資である研究開発を削減してしまうという行動を見て、タカラバイオグループについては現時点では競争優位性がないと判断した。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

まず宝酒造に関して、持続性はあると考えているのだと思う。TVCM やラインナップの強化を明記しているためだ。

宝酒造インターナショナルグループに関しては、M&A 実施やエリアと拠点の拡大を図っており、競争優位性を持続させていけるように努めていると考える。さらに、グローバル人財の育成を強調しているところも多いため、グローバル事業としてのこの分野での持続性は強いと思う。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると思う。この統合報告書には、人財に関することが多く書かれている。人事担当役員からのメッセージでは、グローバル人財の確保と育成のために、さまざまな研修やプログラムを実施していることがわかる。またその他にもリーダー育成に向けた勉強会を実施していたり多様性を重視していたりしている。さらにキャリア支援の強化と、さまざまなことに挑戦できるような風土づくりを行なっている。これらのことが人事担当役員メッセージのページに書かれている。

それに加えて、この統合報告書にはサステナビリティに関するページが多く 30 ページにも及んでいる。その中で人財についてのページがあり、先述の内容に加えてワークライフバランスの実現と従業員のエンゲージメント向上について主に記載されており、非常に社員の成長を考えていると感じた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

良かった点としては、まず、会社として何を大事にしているのかがわかりやすかった点がある。特に ROIC 経営の重視と人財育成について非常に印象に残っている。これらを文章の中で述べるだけでなく図でもそれに触れている。また、それと類似した点であるが、文章で述べたことを図示化することによって理解が容易になっている点も良かった。

一方で、改善余地としては競合との比較や市場分析が少なかったことにあると思う。自社が展開している事業領域について、どれほど将来性があるのか、競合の動きはどのようなのかな

どについて知ることができると投資家などにとっても分析が容易になったり、説得力がある説明になったりするだろう。

〈参考〉

宝ホールディングス株式会社「宝グループレポート 2024 統合報告書」
(https://ir.takara.co.jp/ja/Library/AnnualReport/main/01/teaserItems2/04/linkList/0/link/takaraHD_2024M_Jp.pdf 閲覧日：2024年11月1日)